

注意欠陥／多動性障害

(3) 注意欠陥／多動性障害 (ADHD) のある子供の学習面や行動面の困難さへの対応

① 学習面、行動面での困難への対応

ADHD の障害特性による行動上の特性が、学校での集団生活において著しい適応の困難につながっている場合があります。しかし、多くの場合、それらの行動特性は、「やる気」や「態度」の問題と受け止められがちで、障害特性として、気付かれにくかったり、認められなかったりする面があります。

「教育支援資料」(文部科学省, 2013) では、ADHD のある子供の学習活動においては、以下のような対応が必要になるとされています。

ア 不注意な間違いを減らすための指導

不注意な間違いが多い場合には、他の情報に影響を受けやすいのか、視線を元の位置に戻し固定できないなど視覚的な認知に困難があるのか、僅かな情報で拙速に判断してしまうのかなどの要因を明らかにした上で、いくつかの情報の中から、必要なものに注目する指導や、どのような作業でも終わったら必ず確認することを習慣付けるなどの指導を行う。

イ 注意を集中し続けるための指導

一つのことに注意を集中することが難しい場合には、どのくらいの時間で注意の集中が難しくなるのか、教科や活動による違いはあるのかなど、困難の状況や要因を明らかにする。その上で、一つの課題をいくつかの段階に分割したりして、視覚的に課題の見通しを確認できるようにすることや、窓側を避け、黒板に近い席に座らせるなどの集中しやすい学習環境を整えるよう配慮するなどの工夫をする。

ウ 指示に従って、課題や活動をやり遂げるための指導

指示に従えず、また、課題や活動を最後までやり遂げられない場合には、指示の具体的な内容が理解できていないのか、課題や活動の取組の仕方が分からないのか、集中できる時間が短いのかなど、その要因を明らかにした上で、指示の内容を分かりやすくする工夫を行い、分からないときには助けを求めることを指導します。課題の内容や活動の量の工夫も行うように努め、最後までやり遂げることを指導する。

エ 忘れ物を減らすための指導

忘れ物が多かったり、日々の活動で忘れっぽかったりする場合には、興味のあるものやないものなど事柄により違いがあるのか、日常的に行うものとそうでないもので注意の選択に偏りがあるのかなど、その実態を把握した上で、その子供に合ったメモの仕方を学ば

せ、忘れやすいものを所定の場所に入れることを指導するなど、家庭と連携しながら決まりごとを理解させ、その決まりごとを徹底することにより、定着を図る。

オ 順番を待ったり、最後までよく話を聞いたりするための指導

順番を待つことが難しかったり、他の人がしていることをさえぎったりしてしまう場合には、決まりごとを理解しているのか、理解しているのに行動や欲求のコントロールができないのかなど、その要因を明らかにした上で、決まりごとの内容と意義を理解させ、その徹底を図る指導を行います。その際、例えば、ロールプレイを取り入れ、相手の気持ちを考えることや、何かやりたいときに手を挙げたり、カードを指示させたりするなどの工夫をする。

② 二次的障害

障害として認められないと必要な支援が受けられず、うまく取り組むことができない失敗経験が重なり、自信や意欲を失ったり、自己評価の低下につながったりしていきます。周りで注意したり叱責したりする人たちや社会に対しての反発心を強めてしまう場合も出てきます。このような心理状態から、望ましくない行動がさらに現れたり、できていた学習ができなくなったりするなどの二次的な障害が、本来の障害特性である一次的障害に加えて起こってきます。

一次的障害は、基本的には大きく変わっていくものではありません。その障害特性によるつまずきや困難さを補助・支援することを第一に考え、時間をかけて可能なところから対応を図っていく必要があります。二次的な障害は、適切な支援によって改善していきます。一次的障害による困難さに対する支援とともに、二次的障害に対する予防や改善を考えながら支援を工夫することが大切です。

ADHD のある児童生徒等の教育的ニーズは多様であることから、一人一人の実態把握を行動上の問題だけでなく、教科学習や対人関係の状況、学校生活への適応状態など、様々な観点から行う必要があります。また、ADHD のある児童生徒の保護者や学級の他の児童生徒とその保護者に対し、その障害特性の理解を積極的に図っていくことも大切です。

行動面への指導・配慮は、小学生など低年齢段階から適切な指導を行うことが重要です。対人関係に関する技能をはじめとして、社会生活を営む上で必要な様々な技能を身に付けさせ、適切な行動に向けての自己管理能力を高めていきます。自信の回復や自尊心（自己有能感）の確立、自分の行動への振り返りや他者が自分をどうとらえているかの理解等も大切です。

問題行動や非行などの問題への配慮のほかに、周りの児童生徒などとの関係によるいじめや不登校等の問題についても配慮が必要です。共感的理解の態度をもち、一人一人の長所やよさを見つけ、それを大切にされた指導・支援を考えていきます。